

詳細ニュース

1. フォックスコン（台湾のEMS最大手）8／1

中国でJVを設立しプラスチック、化学事業に進出する計画。18億米ドルの投資。

フォックスコン・エレクトロニクスは、インドネシアのSinar Mas Groupと中国のShanxi Lanhua Groupと合弁会社を設立し、中国においてプラスチック製品とエネルギー関連製品の事業を開始すると報告した。新合弁事業への3社の投資金額は18億米ドルとみられている。石油化学材料を生産する新合弁会社では、年産150万トンのメタノールと、10万トンのポリオキシメチレンを生産する予定である。

フォックスコンは現在、Shanxi省（山西省）にマグネシウム・シティとも称される工業地帯を整備中で、EMSメーカーにとって重要なマグネシウム/アルミニウム合金の垂直統合型（ヴァーティカル・インテグレーション型）サプライチェーンの確立を推進中だと伝えられている。

今回の合弁会社設立に関しては、今後フォックスコンが、川上の原材料に対する垂直統合型サプライチェーンの確立を、さらに強固にすることが目的だと分析されている。

2. Schlafhorst Electronics（ドイツの実装基板メーカー）8／2

JUKIのマウンター3台を含めて、新しいプリント基板実装ラインを整備。鉛フリーで0201部品の実装が可能に。

ドイツの実装基板メーカーであるSchlafhorst Electronicsは、ドイツとポーランドの工場に、新たにSMT実装ラインを増設した。今回新たに導入した設備は、「EKRA X5」スクリーン・プリンター1台、JUKIの実装システム3台、「Rehm V8」リフロー・オーブン、「Asys Hnadling System」などである。新ラインは1時間当たり24万ピースの実装能力を有しており、0201部品までの小サイズの部品実装が可能である。また高温用システムであるため、同ラインのリフロー・オーブンは鉛フリー対応となっている。

3. 台湾のLCDメーカー 8／7

AUO、CMOなどの大手メーカーが、将来の事業の候補として、価格競争が少なく安定している太陽電池に注目。

AU Optoronics (AUO)、Chi Mei Optronics (CMO) など台湾の大手LCDメーカーは、現在太陽電池に注目している。

AUOは、アモルファスシリコンを用いた小～中サイズのTFT-LCDの価格競争から抜け出すために、3.5世代TFT-LCD工場の一部の生産ラインを、低温ポリシリコン(LTPS) TFT-LCDの生産に切り替えた。さらに同社は、フロントエンドのTFT-LCDと太陽電池の生産で、同じ生産ラインを共有するために、現在機器メーカーに打診をしている。

CMOは、モニターとバックライト・ユニット(BLU)の生産を手掛けている子会社のChi Lin Technologyを通じて、太陽電池への投資をするための情報を収集している。

4. Tripod (台湾の基板メーカー大手) 8/10

アップルコンピュータのiPod用のプリント基板を引き続き供給へ。月産で2、3百万セットの規模。

台湾のTripod Technologyは、現在アップルコンピュータにiPod nano用のプリント基板を供給しているが、第4四半期に発売予定の新型iPod用のプリント基板も、引き続き受注する予定である。アップルがMP3プレイヤー市場に参入して以来、4社以上の台湾のメーカーがiPod用のプリント基板を供給しており、同社はそのうちの1社である。繁忙期には、アップルからのiPod用プリント基板の受注は、2～300万セット/月になる。

5. SEMI (米国半導体業界団体) 8/24

2005年の世界のMEMS市場規模は480億米ドル。2010年には950億ドルまで成長と予測。

SEMI(Semiconductor Equipment and Materials Institute)などによると、世界のMEMS(Micro-electromechanical systems)市場は、2005年に480億米ドルとなり、2008年には720億米ドル、2010年には950億米ドルに達すると予測されている。これは、今後5年間の年間平均成長率(CAGR:Compound Annual Growth Rate)が15%であることを意味する。

世界のMEMSデバイス市場は、2005年に52億6000万米ドルであったが、13%のCAGRの成長後、2010年には98億6000万米ドルになると予測されている。MEMS機械市場は、2005年に6億3100万米ドルであったが、2008年に7億5800万米ドル、2010年に8億6100万米ドルになると予測されている。今後5年の同市場のCAGRは6%と予測されている。MEMS材料は、サブストレート、薬品、その他の材料に分類される。これらの合計市場は、2005年には3億8500万米ドルであり、2010年には7億7100万米ドルになると予測されている。MEMS材料の2010年までのCAGRは、15%と予測されている。

トップ30のMEMSデバイス・メーカーが、世界のMEMSデバイスの売上げのうちの84%を占めている。2005年において、MEMSデバイス売上げの約半分(26億米ドル)は、北米であった。2番目が約20%シェアの日本であり、3番目が16%シェアの

欧州であった。シンガポールも、ST マイクロエレクトロニクスなどが健闘して、全体の11%を占めた。

6. SEMI (米国半導体業界団体) 8 / 28

中国のTFT-LCD産業に関するレポートを発表。2007年には35%、2008年には50%の成長を予測。

SEMI(Semiconductor Equipment and Materials Institute)の発表した新刊レポート「China TFT-LCD Industry Report」によると、中国におけるTFT-LCDの生産能力は、2007年には35%、2008年には50%の成長が予測されている。

同レポートでは、ディスプレイ製造装置に対する投資が中国以外の地域では鈍化していく結果、最終的には中国がTFT-LCD製造装置市場の20-30%を占めることになると予測している。現在中国では、第5世代のTFT-LCD生産ラインが2ライン稼働しており、さらにもう1ラインも稼働が始まる見通しである。また稼働中の1ラインは現在能力を増強中である。第1世代の工場も1つあり、中国資本による第2-3世代のライン3本が、韓国で稼働中である。

さらに中国では、Truly Semiconductorの第2.5代半導体プロジェクト、上海天馬(Tianma)第4世代ライン、IVOによる第5世代の追加能力60,000シート計画など、数多くのプロジェクト向け投資計画が、様々な段階で進行中である。さらに深セン・イノヴェックス第5世代プロジェクトは、環境関連の承認待ちの段階まで来ている。また、深セン Jiulong と上海 SVA-NEC の第6世代の工場も、同じく承認待ちの段階だといわれている。

このレポートは、SEMIのメンバーには1,000米ドル、非メンバー1,500米ドルで発売している。(法人向け複数購読に対する、ライセンス販売は別料金。)

(注) このニュース記事の正確さには万全を期しておりますが、同時に速報性も重視しております。従って、この情報だけに基づいて行動を起こされることはお勧め致しません。

DKNリサーチ